

令和3年度 入学試験問題

総合問題

(国際地域学科 地域協働専攻)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は表紙を含めて10ページです。
- 3 解答用紙は4枚、下書き用紙は2枚です。
- 4 受験番号は、すべての解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 解答は、横書きとし、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 6 解答に字数制限がある場合は、句読点等も1字分とすること。
- 7 問題冊子・下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。なお、いかなる理由があっても、解答用紙以外は受理しません。
- 8 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

問題 1

次の文章（英文と和文が混合された文）を読み、後の間に答えよ。（100 点）

私たちの記憶は、具体的な出来事を参照するのではなく、百科事典のように振る舞うことがある。このような一般的な知識の記憶を意味記憶(semantic memory)という。This type of memory allows us to take advantage of regularities^{注1)} in the world to make more accurate predictions about what will happen next. 例えば、あなたが使えるのが具体的な事例についてのエピソード記憶(episodic memories)だけであるならば、犬に出会うたびに毎回、安全な状況かどうかの見当を付け、どのように反応すべきかを、あらためて一から検討する必要が生じるだろう。新しい椅子を見るたびに、その使用目的を決定しなければならぬかもしれない。また、初めてのレストランに行くたびに、食べ物を手に入れる手順を学ぶ必要に迫られるだろう。Semantic memories are generalizations that apply to a wide variety of similar circumstances.

〈中略〉

Semantic memories capture regularities about the world, and so they are useful in predicting new situations. 意味記憶は、上手く働いている限りでは、ほどよく正確である。とはいうものの、完全ではない。時には私たちを間違いへと導くこともありうる。ここでは、二つのタイプの間違いについて論じる。These are semantic illusions and the errors that can accompany naive physics.

Semantic Illusions

How many animals of each kind did Moses^{注2)} take on the ark^{注3)}? (ア) 「2匹」と答える人が多いが、それは間違っている。モーゼは動物を箱舟に乗せたりしておらず、それをしたのはノアなのである。この手の記憶間違いに関する先駆的な研究によると、カリフォルニア大学サンディエゴ校の学生の81%が、間違っ「2匹」と答えたそうだ。全員、正しい答えを知っていたにもかかわらずだ。Thus, this semantic memory error is called the **Moses Illusion**. さて、どうしてこんなにも多くの人がこのような間違いを犯すのだろうか？ 意味記憶は、他のさまざまな種類の記憶同様、間違いを生じやすいものなのだ。間違いの原因は、一般的な物忘れだけではなく、情報の不適切な検索であることもありうる。

こうした間違いは、心の中で問いを修正したり、あわてて応答したりする人々ばかりに起こるわけではなさそうだ。似たような名前など、語彙情報に重複した部分がある場合も生じやすい。例えば、「ルイ・アームストロング^{注4)}が初めて月面に第一歩を踏み出したときに発した有名な言葉は何か？」という質問に返ってくる答えは、不適切なものであることが多い。

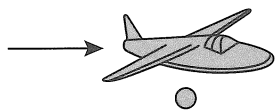
(イ) There are three accounts of the Moses Illusion. First, semantic processing is very general unless people focus on the information of interest. That is, we only do a

cursory^{注5)} check of knowledge in semantic memory to see if the information is broadly consistent. Second, people engage in only a partial assessment of semantic information. That is, people retrieve some of the information from semantic memory and, so long as it is a close fit, they are willing to go with it. Third, similar language elements, such as a similar name, can inappropriately activate information in semantic memory, giving the illusion that it is known. In other words, if it sounds close, people are often willing to disregard some smaller inconsistencies. Thus, information in semantic memory is accessed in an imprecise way and can lead to errors.

Naive Physics

非言語的な知識についても semantic memory illusions は生じる。日常経験の中でおのずから獲得される概念や法則等が保持されている意味記憶には、重力や摩擦のような物理法則も含まれている。Some naive physics knowledge is stored in semantic memory. しかし、この知識を意識的に活用するとき、誤解が明らかになることがある。いくつかの研究を紹介しよう。ジョンズ・ホプキンズ大学の学生たちは図1を示され、飛行機から落とされたボールの軌跡を示すよう求められた。学生たちの答えは、図2のようになった。飛行機からボールを落とした場合、ボールは水平方向には飛行機が飛んでいるのと同じ速度での等速直線運動を行う。垂直方向には重力がかかり、自由落下運動が生じる。(ウ) 水平方向と垂直方向の運動が合成され、正解のボールの軌跡は図2のaのようになる。しかし、aを図示した学生は40%にとどまり、間違ったボールの軌跡であるbやcもしくはdを描いた学生たちは合計60%にもものぼった。

ある場合には正しい応答をする人々も、意味記憶の間違った知識を用いて間違った反応をすることがある。まるで中世の運動理論が成立しているかのような回答は、とても興味深い。このような回答は静止図解では生じやすく、動画で正解を見せると減るようである。必ず、というわけではないけれども。



地面

図1 naive physics に関する説明に用いられたイラスト：
課題は、「飛行機から落とされたボールの軌跡を示せ」

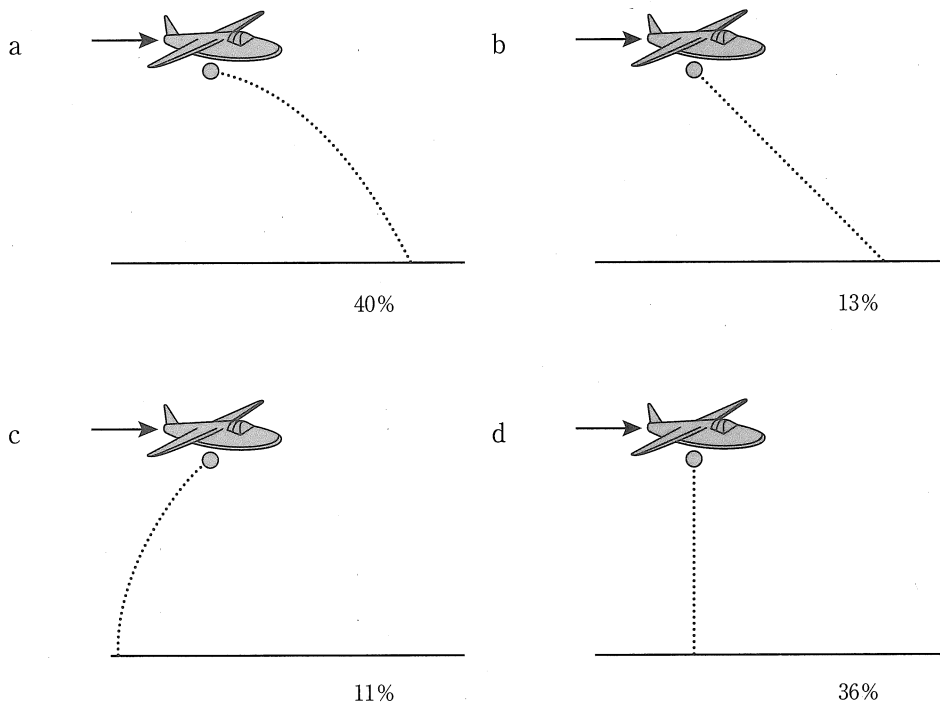


図2 図1の課題で得られた回答の分類と割合

注1) regularity : 「規則性」

注2) Moses(モーゼ): 旧約聖書によると, モーゼは, シナイ山で神から石板に刻まれた十の戒律を受け取った。この石板を取めた箱のことを, 英語では the ark (もしくは the Ark) of covenant という。

注3) the ark(箱舟・方舟): 旧約聖書によると, 神が40日40夜にわたる大洪水をもたらした際に, ノアが箱舟をつくり, 動物を一つがいつ乗せて生き延びた。この箱舟のことも, 英語では the ark(あるいは the Ark)という。

注4) ルイ・アームストロング: 月面に初めて降り立ったのはニール・アームストロングであり, 彼は “That’s one small step for a man, one giant leap for mankind” と言った。ルイ・アームストロングはジャズ歌手であり, 代表曲として “What a wonderful world” などがある。

注5) cursory : 「いい加減な, おおざっぱな」

Republished with permission of Taylor & Francis Group LLC - Books, from *Human Memory : Third Edition* by Gabriel A. Radvansky, 3rd edition, 2017; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.



問題の作成にあたり, 次の文献を用い, 一部を翻訳及び改変しました。

Gabriel A. Radvansky (2017), *Human Memory* (third edition), Routledge.

また, 上記の文献で利用されている次の文献の一部を要約して利用しました。

Michael McCloskey (1983), Naive Theories of Motion. In: Dedre Gentner & Albert L. Stevens (eds.), *Mental Models*, Erlbaum.

問1 意味記憶とはどのようなものか、本文の第一段落を踏まえて50字以内で説明せよ。なお、解答は「意味記憶とは」から始めること。(10点)

問2 下線部(ア)について、適切な応答は、どのようなものだと考えられるか。「2匹」の代わりとなりうる応答を、30字以内で答えよ。(10点)

問3 下線部(イ)で始まる段落には、Moses Illusionが生じる三つの理由が述べられている。本文の内容に即して、それぞれ30字以内で答えよ。(10点×3)

問4 図2のdについて、以下の問に答えよ。(10点×2)

- (1) 下線部(ウ)を踏まえ、図2のdのような間違いが生じる理由を簡潔に説明せよ。
- (2) このような間違った答えが生じるのは、naive physicsのどのような性質によるものか。簡潔に説明せよ。

問5 高さhを速度 $v = 148.0 \text{ m/s}$ で水平に飛んでいる飛行機から、地点pの上空でボールを落としたところ、地点qで、地面に対し 45° の角度でぶつかった。ボールの運動に関する下の問に答えよ。ただし、地面は水平であり、空気の抵抗は無視できるものとする。必要があれば、 $\sqrt{2} = 1.414$ 、 $\sqrt{3} = 1.732$ 、 $\sqrt{5} = 2.236$ として計算に用いよ。(10点×2)

- (1) 地点qで地面にぶつかる直前のボールの速度 v を求めよ。ただし、解答は小数第2位を四捨五入して、小数第1位まで記入せよ。
- (2) 飛行機が飛んでいる高さhと、地点pから地点qまでの距離 ℓ との関係として正しいものを、下の①~③から一つ選び、数字で答えよ。
 - ① $h > \ell$
 - ② $h = \ell$
 - ③ $h < \ell$

問6 本文の内容と整合しないものを下の①~④から一つ選び、数字で答えよ。(10点)

- ① 私たちは意味記憶のおかげでレストランに行くたびに注文の仕方をあらためて学ばなくてよい。
- ② 言語的な知識にも非言語的な知識にも、semantic memory illusionは生じうる。
- ③ naive physicsは頑強で、ある場合には正しい応答をする人も、別の場合には間違えることがある。
- ④ 実体験を踏まえて得られた知識には間違いがない。

問題2

次の文章を読み、後の問に答えよ。(100点)

これまでも「ボランティア」に関する文章は大量に生産されてきた。多くは、事例の紹介、グループ運営の方法、各領域で期待される役割に関するものであるが、そのいずれでも「ボランティアとは何で、それがどういう価値をもっているか」について、何かしらの言明が行われる。これに対し本書では、「ボランティアとは何か、どういう価値があるか」について、これまで人々は何を語ってきたか、に注目する。換言すれば、(ア) ボランティアの分析ではなく、ボランティアに関する語りに関するメタ的な分析が、本書のテーマとなる。

では、ボランティアに関する語りをメタ的に分析することにどういう意味があるのだろうか。本書では「メタ的」という言葉に二つの意味を込めており、本書の狙いも双方に関わる。

一つ目の「メタ」のレベルは、人々がボランティアをそのように捉えることが、いかなる政治的・社会的文脈で行われ、どういう帰結とつながっているのか、という水準である。この問いは、社会と言葉という区別をひとまず素朴に前提とした上で、言葉に外在する社会に照準すると自己理解する点で「メタ」的であると言える。このような認識を採用しつつ、本書では特に「動員モデル」とでも言うべき理論枠組について検証していく。動員モデルとは、ボランティア活動をマクロな社会レベルから観察し、本人たちの善意や思いとは裏腹に、国家の政策や資本に動員されていると診断を下す枠組の総称である。(イ) このような見方は、ボランティア的なものに対して絶えず向けられてきたが、近年でも、ボランティア活動やNPOの推進の時期が、社会保障の抑制や規制緩和・民営化といった (ウ) 的政策の進行と重なったこともあり、両者の関係が批判的に検討されてきた。ボランティア活動の称揚が、そのような国家の機能転換のための「巧妙なひとつの動員」だと指摘される中で、ボランティアを肯定する言説はいかなる意味を有しているのか——動員のメカニズム分析の一つとして、ボランティアの言説を分析するのが、一つ目の「メタ」レベルである。

二つ目の「メタ」のレベルは、ボランティアの言説においてくり返し現れるパターン（意味論形式）を抽出するというものである。通常、ボランティアには良い価値があるとして称揚される。しかしその裏側では、公にはあまり現れないにしろ、否定的なまなざしも向けられているのではないだろうか。それは、政治以前の素朴な感情として表明される。「偽善じゃないのか」「自己満足だろ」というように——。ボランティアをめぐる語りには、肯定と否定、称揚と冷笑の言葉が、双子のように表れる。このパターン分析が重要なのは、上記の「動員モデル」だけでは、次の二つのことを十分に説明できないからである。

第一に、もしボランティアを肯定する言説が、動員モデルの言うように「国家や資本の要請」と連動しているように観察可能だとしても、なぜそうなるのか解明できない。これに「イデオロギー効果」と答えることはトートロジーであろう。ボランティアをめぐる言説にも、国家や資本といっ

た外在的な要因に還元されない固有の作動形式があり、もし「動員」と呼ばれることが生じるにしても、その固有の形式との関係を捉えなければ、そのメカニズムを十分に解明できないのではないだろうか。本書では後述のように、肯定／否定、称揚／冷笑のパターンこそが、ボランティア言説固有のコードを解き明かす鍵だと考える。

第二に、動員モデルは、「ボランティア」という言葉の増殖を説明できても、縮小は説明できない。そう、一般的なイメージとは異なり、2000年前後から「ボランティア」には縮小の徴候が見られるのだ。詳しくは第9章で論じるが、例えば言説／表象に関して、朝日新聞で「ボランティア」が見出しとなった記事数は1995年の171をピークに徐々に減っていき、2000年には60、2005年には26となっている。また社会生活基本調査によると「過去1年にボランティア活動を行った人」の割合は、2001年から2006年までの間に全ての収入層で減少しており、全体でも33%から29%に減少している。郵政選挙で小泉自民党が圧勝した2005年はネオリベリズムが最も盛況だった年と言えるが、もし「動員モデル」で全て説明できるなら、この年の前後はボランティアが活況を呈していたはずである。ここには、「ボランティア」という言葉を生み、増やし、そして棄却していく、別の《力》が関与していると言えないだろうか。

〈中略〉

(エ) ナイジェリア系イギリス人のインカ・ショニバレ (Yinka Shonibare, 1962～) は、アフリカに注がれるコロニアリズム的視線を鋭く捉え返す作品を作ってきた現代芸術家である。その作品の一つに、「ヴィクトリア朝、博愛主義者の談話室 (Victorian Philanthropist's Parlour)」というインスタレーションがある(図)。それは19世紀のイギリス人の^{フィランソロピスト}慈善事業家の室内装飾を模したのだが、よく見るとインテリアは、アフリカ系の布で装飾されている。植民地のアフリカで慈善事業を行う資本

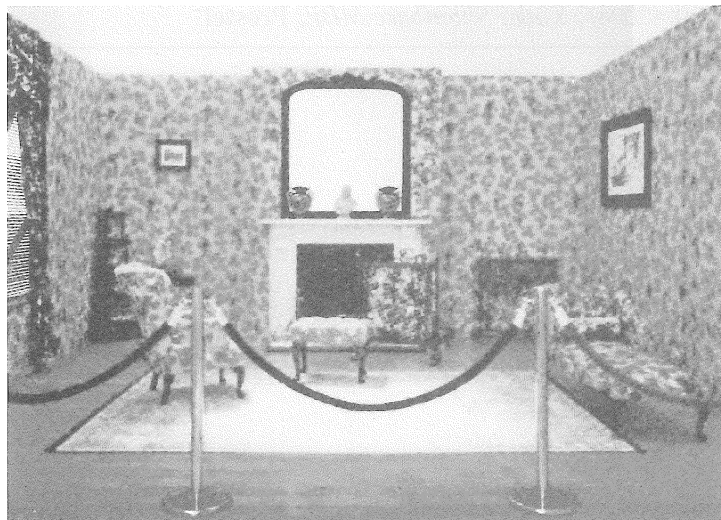


図 インカ・ショニバレ「ヴィクトリア朝、博愛主義者の談話室」(1996～1997年)

家が、同時にそこからの搾取で富を築き、自らを飾る象徴資本に用いる偽善的な構造を、(オ) われわれは皮肉なまなざしで眺めることになる。ところで、(カ) 部屋の中心には大きな鏡がある。この部屋を冷笑的に眺めていた者は、そこに自分自身の姿を発見することになるのだ。これは何を意味するのだろうか。最も妥当な解釈は、(キ) 善意を装いアフリカを収奪してきた者こそ他ならぬお前（西欧／白人）自身だという告発である。同時にもう一つの解釈も可能なように思われる。つまり、(ク) このフィランソロピストの部屋は、偽善ぶりを批判的に眺めるまなざしがあって、初めて完成する。メタレベルから否定するまなざしは、この部屋に外在するのではなく、その不可欠な要素としてすでに内部に組み込まれている――。

(ケ) 「ボランティア的なもの」をめぐる言説空間も、この部屋の構造と似ている。ボランティアをメタ的に批判しようとする言説は、メタレベルに立ちきることなく、同一平面上に流れ込み、再帰的に言説を作動させていく。もちろん言説の再帰性は普遍的なメカニズムと言えるが、ボランティア言説の場合、偽善（＝贈与のパラドックス）という外からの批判は、肯定する側も、自らの否定的準拠点として共有しているという特徴がある。その意味で、^{ファーストオーダー}一次の観察と^{セカンドオーダー}二次の観察が、同じ存在身分で言説空間を形作っている。動員モデルの検証を課題の一つとする本書も、この部屋の住人となるだろう。

問題の作成にあたり、次の文献を用い、一部改変しました。

本文： 仁平典宏 『「ボランティア」の誕生と終焉』(名古屋大学出版会) 2011年

図： Rachel Kent (2008), *Yinka Shonibare MBE*, Prestel.

問1 下線部(ア)に関し、ボランティアに関する語りに関して著者が分析したいことが本文中に二つ挙げられている。それらを合わせて100字以内でまとめよ。(20点)

問2 下線部(イ)に関し、「このような見方」とはどのような見方かを、本文の内容に即して80字以内で記せ。(20点)

問3 空欄(ウ)に入れるのにふさわしい語句を、本文中から探し、書き出せ。(10点)

問4 下線部(エ)に関し、ナイジェリア連邦共和国の説明として正しいのはどれか。①～⑤から選び、数字で答えよ。なお、①～⑤には、ナイジェリア、エジプト、南アフリカ共和国、モロッコ、エチオピアに関する各国の事情の説明が含まれている。(10点)

- ① 1940年代後半に法制化されて以来継続されたアパルトヘイト政策は、1991年に関連法が全廃された。その後、民主化が進められているが、白人と黒人の経済的格差は依然として大きい。
- ② 人口・GDPはアフリカ第1位であり、近年ではサービス産業の成長が顕著である。他方、国家歳入の約7割、総輸出額の約8割を原油に依存しており、経済の多角化が課題となっている。
- ③ 観光、運河通行料、出稼ぎ外貨送金等が国家の経済を支えていたが、2011年の政変後、観光及び投資の落ち込みにより大幅な貿易赤字が続き、従来の経済構造が崩れている。
- ④ アフリカ連合(AU)や国連アフリカ経済委員会(ECA)の本部が置かれるアフリカ地域の外交の中心地の一つであり、近隣するソマリアや南スーダンの安定化等に積極的に関与している。
- ⑤ アフリカ北西部にあって、大西洋と地中海に面しており、同じアラブ・イスラム諸国との関係に加え、アフリカ、地中海諸国の一員として、多様な国々と密接な関係を有している。

問5 下線部(オ)に関し、ここで言われているのはどのような事態に対する「皮肉」と考えられるか。本文の内容に即して40字以内で記せ。(15点)

問6 下線部(カ)～(ケ)に関し、以下の問に答えよ。

- (1) 下線部(カ)の問いに著者は下線部(キ)・(ク)という二つの解釈を与えている。下線部(ケ)で言う「「ボランティア的なもの」をめぐる言説空間」と「この部屋の構造」の類似を説明するうえで、有効な解釈は(キ)・(ク)のどちらか。適切なものを選んで記号を記せ。(10点)
- (2) (1)で選んだ解釈に基づき、「「ボランティア的なもの」をめぐる言説空間」と「この部屋の構造」にどのような類似があるかを50字以内で記せ。(15点)

